

名寄周辺モデル地域圏域検討会 物流ワーキングチーム

(3)取組により期待される効果及び課題

令和4年度までの取組内容

関係市町村・民間

- 名寄周辺地域の物流拠点化に向けた可能性検討（道北圏域ロジスティクス総合研究協議会）
- 北・北海道中央圏域定住自立圏参加自治体・民間との連携強化・物流課題解決に向けた検討（名寄市役所）

北海道

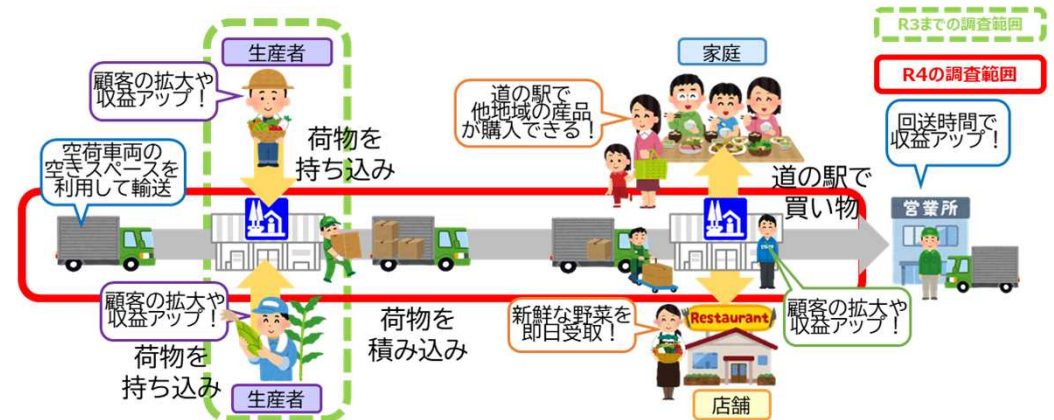
- 「北海道交通政策総合指針」重点戦略の着実な推進

国土交通省

- 「総合物流施策大綱（2021～2025）」の着実な推進、物流総合効率化事業等の推進（北海道運輸局）
- 「共同輸送・中継輸送実装研究会」設立、道の駅等を活用した物流効率化の実証・可能性検討（北海道開発局）

■「道の駅」を活用した物流効率化の取組内容

- 道の駅物流の担い手となる物流事業者の「道の駅時刻表」を作成
⇒ 道北の内陸部、日本海側及びオホーツク海側を通行する運送事業者を抽出し、ルート、通過時間、輸送品、荷姿、温度帯、積載率等を整理
- 旭川～稚内間の道の駅を対象に地域の特産品や相互販売の意向を調査
⇒ 道の駅間連携の可能性が高い道の駅とそれらをつなぐルート把握

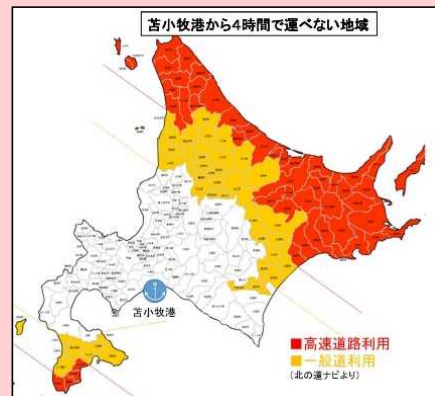


横軸が道の駅間物流の基幹インフラ。縦軸が生産者からのファースト1マイルや消費者へのラスト1マイルのイメージ。

令和4年度までの取組から得られた課題(今後検討すべき事項)

●名寄市を中核とする物流拠点化の実現

- ⇒ トラックドライバーへの時間外労働の上限規制の適用（2024年度～）による1日輸送距離の制限（片道約4時間の上限）。
- ⇒ 高規格道路延伸に伴う名寄地域の時間距離的優位性向上。
- ⇒ 名寄市への物量集積（拠点化）の実現による地域間輸送の効率化。広域防災拠点機能付加の検討。



出典) 名寄物流WT資料。
北海道開発局にて作成。

●「道の駅」間輸送の具現化

- ⇒ 道の駅間の相互販売及び道の駅間共同配送の実施に向けた計画検討

取組により期待される効果(目指す姿)

生産者

- 道北地域の特産物や少量生産物の安定出荷
- ⇒ 生産者の出荷負担の減少、地域の新たな特産品発掘

物流事業者

- 片荷解消による新たな利益の発生、トラックドライバーの就労環境改善 等
- ⇒ 輸送の効率化、ドライバー確保

地域物流・生産活動の維持

名寄周辺地域の産業活性化